

◆税金滞納、公共料金遅れ、経営不振、無申告、赤字でも融資を実現

県連	民商	事例内容
北海道	札幌中部	(65歳・スナック) 申告所得も30万円台と低く、難色を示していたが、この秋から年金が支給されることや、開店30年を機にあと5年頑張りたいと交渉して融資が実現。
岩手	盛岡	09年5月、融資申し込み時に、保証協会から税金の滞納があるので保証できないとの回答があり、税務当局と税金支払いについての合意書を作成。銀行、保証協会に提出して、融資実行。12月に資金が必要になり、同じ銀行に融資を申し込むも、税金の支払いが合意書通りに行われなかったとして、保証協会から断られた。再度、税務当局と支払いについて話し合い、合意文書を銀行、保証協会に提出。数日後に銀行から融資を実行しますとの連絡がきた。
群馬	沼田	過去2年間の申告所得が100万円にも満たない業者が、金融機関に経営改善計画を提出し、300万円の融資を実行させた。
埼玉	浦和	既往債務2本。残債3500万円で月々70万円を返済。当初11月22日に申し込むも、決算書の内容に信金が難色を示す。12月～2月までの事業計画を提出し、交渉を重ね、10年の借り換えで返済月額を35万円に減少(半減できた)。加えて1000万円の真水も借りられた。
茨城	土浦	国税を1000万円ほど滞納、国税特別徴収官に「毎月50万円か売掛金の差し押さえのどちらがいいですか」「月50万円では滞納が解消しないでしょうから、来月から月80万払いなさい」などの数々の暴言を吐かれた。民商と税理士の協力も得て「納税の猶予」を認めさせ、現在月10万円の分納中。3日という短期間で信用金庫で1200万円のセーフティーネット融資を獲得。
神奈川	横須賀	(法人・鉄筋業) 税金滞納が1000万円あったが、分納計画書(一律の支払いでなく、最初は少なくともだんだん多くし、最後にまとめて支払うとした計画書)を作成し、1回は支払い、2回・3回目については先日付け小切手を差し入れて税務署から受領書をもらい、保証協会に提出。協会では3回納付したと見なし、1000万円の融資を実行。
神奈川	横須賀	(個人・スナック) 所得税ゼロ、非課税証明書しか取れなかったが証明書を取って提出。昼間の定食を新たに始める事業計画書を作って、資金使途明細書、返済計画書を合わせて作成し提出。12月11日に申し込みし、12月28日に設備資金150万円、運転資金50万円の合計200万円が実行された。
鳥取	米子	07年11月に個人再生。現在も再生計画に基づき返済中。税金滞納(消費税・固定資産税・軽自動車税)があり、分納中。当初「個人再生中」という理由で融資が断られた。民商と一緒に返済計画をつくり、保証協会の内諾を受けたが、銀行の支店は再度断る。本店と交渉し、「条件変更や事故・赤字というだけで断ることはない」「破産・調停・個人再生中というだけで断ることはしない」と言明。後日、支店を訪ね、セーフティーネット保証での融資実現。
香川	善通寺	昨年の税務調査で、無申告だったため、5年間さかのぼり、130万円の追徴課税が課された。国民健康保険税や住民税、個人事業税などで総計400万円近い税金を払うことに。毎月、3万円ずつ支払ってきたが、不況で仕事が途切れがちになり、税金の分納も厳しくなる。日本政策金融公庫に「運転資金」の名目で150万円の融資を申し込むも税金の滞納が問題となり、断られる。「最初から納税資金として正面突破しよう」と策を練り直し、保証協会へ。担当者は「国保などの市県民税は対象外だが、所得税は・消費税は対象となる」と2、3の書類をそろえることを条件に、納税用150万円、さらに運転資金として100万円の保証を約束。
大分	大分	(個人・建築塗装業) 申告所得が35万円に満たず、08年は16万円だった。緊急保証で100万円の運転資金を実現。事業計画を提出。仕事の工夫を話し、お客からの感謝の手紙なども示した。

◆代位弁済、自己破産、個人再生など過去の事故や身内の返済不履行、多重債務でも融資を実現

県連	民商	事例内容
北海道	札幌中部	(特殊金属加工業・40歳) 3年前に自己破産。事業計画書の提出でセーフティーネット保証融資(100万円) 実現。
茨城	日立	開業1年半の内装工事業者が、250万円の申し込みをしたが断られた。理由は親(同居)の公庫からの借り入れの返済が滞っていたこと。会長・副会長・事務局長と本人の4人で公庫に申し入れ、「親と子は別事業」「今後の見通し」などを語り、100万円の融資を実現した。
富山	新川	魚津の飲食業者が4年前に500万円ほどの借金返済で個人再生手続きを利用、08年地方銀行に小口資金の融資を申し込もうとしたが、受け入れられず断念。昨年12月に民商に相談。直ちに入会し、2日後に事務局長と一緒に同じ銀行に行き「申込書を受け付けないのはひどい。金融円滑化で中小企業の支援を強めるよう指導されているはず」と申し入れた。銀行はしばらくしてから申し込みを受け付け、1週間後に保証協会から保証実行の連絡がきた。
兵庫	神戸北	融資は父親の債務があるという理由で無理という回答だった。本人は父親から事業は継承していないので、「納得できない」。保証協会との交渉では、そういったケースは個々に事情を聴きますとの回答で、「通達が下りてきていないのか」と迫った。担当者は「上の者と相談はします。持ち帰って、今週末か来週初めに社長に連絡するようにします」と返事し、後日、最終的に5000万円の融資が実現された。
滋賀	大津	6月に自己破産したりサイクル業者。9月に銀行の支店に申し込み、11月に実行。
山口	下松	プラント工場内の配管工事(個人)5年前に有限会社を自己破産免責。その後個人で営業を継続、売上減少の中だが県制度融資を申し込み、実現した。
大分	大分	(スナック) 3年間申告所得が25万円～40万円しかなく、5年前に自己破産。協会で100万円の5年返済だったら、返済が月1万8000円なので、勤め人になっても払える額であること、今は商売を続けたいと交渉し、100万円の運転資金を実現。
鹿児島	鹿児島	過去に自己破産していたが、あきらめずに申し込み、経営計画、工事現場などで、技術をアピールするなどして、300万円の融資が実現した。

◆債務超過や条件変更中でも融資を実現

県連	民商	事例内容
新潟	新発田	建築業者(法人)で、直近の決算書が売上2000万円、当期損失300万円、借入残高3000万円、累計赤字1900万円で約1500万円の債務超過。運転資金200万円を申し込み。借入金は役員・家族からのものですぐ返す必要がないこと、役員給与の減額などで返済が可能であることなどを説明した結果、申し込み通りに融資が実行された。
新潟	新津	五泉市の米小売店が一昨年秋に続いて2回目の緊急保証を申し込んだ。借入総額が年商を超えるということで、銀行も保証協会も貸し出しを渋る。前回借入時の「経営改善計画」の検証と、新たな「計画」を何回も作り直しながら銀行と話し合いを重ね、300万円(緊急保証150万円・プロパー融資150万円)の融資が実現。
埼玉	川越・東松山	1500万円の追加融資を申し込んだ。2億円を超えていて、債務超過になっていた。本人が粘り強く銀行と交渉する中で銀行から日本政策金融公庫に申し込みを変更するようにアドバイスされた。政策公庫は駐車場の有効利用のため、コンビニを誘致することと、社長貸し付けを減らすことを条件にしたが、条件を満たし、融資が実行された。
神奈川	川崎中原	(管工事業・法人) 月返済100万円を25万円に条件変更中とのことから借り換えは一切応じないと信用金庫から言われていた。県信用保証協会、関東財務局へ訴えたところ、金融機関から「借り換えに応じます」と回答を得る。協会保証付の4本の借り入れとリースの融資分を一本化し、さらに真水も入れて実行された(社長は、返済計画について相当勉強したことで、金融機関に対してきちんと訴えができるようになった)。

◆一本化、借り換え、直前に借りていても再度融資を実現

県連	民商	事例内容
北海道	札幌中部	1年前に、信金と政策公庫から計1800万円の借り入れをして、再度、信金に500万円の融資を申し込む。当初、「借りてから1年末満で無理」と断られたが、経営改善で収益のアップを訴え、300万円に減額はされたたが融資が実行された。
秋田	秋田	(建設業)銀行と県信用組合から、長期、短期、カードローン合わせて1324万5000円をそれぞれの金融機関で一本化させて経営改善ができた。(返済計画表添付) 前段として、サラ金など7社の債務を整理することを条件とされたので、その作業に苦労した。
福島	東石	信金の借入を旧国金に借り換えでき、追加融資もOK。毎月の返済額を減らすことができた。元金据え置きは3カ月。
香川	善通寺	サービス業のBさんは、昨年の同時期に比べて売り上げが40%減。銀行・政策公庫に断られ、民商に相談。不動産担保のサラ金・商工ローンからの借入1000万円が経営を圧迫していた。つなぎ資金だけでなく、この機にサラ金・商工ローン、銀行からの既存の借入一本化して、毎月の返済額を軽減することにして一本化に必要な1800万円の融資保証を申し込む。綿密な事業計画と返済計画を作成し、毎月の返済額47万3000円が、一本化すれば新規融資500万円を追加しても23万2000円に減額でされ、年間400万円の経費削減になると力説。協会は「①協会と銀行で合計1300万円の融資をする②残り500万円は政策金融公庫」と回答。政策公庫では300万円の借り入れ、1600万円で当面の運転資金を確保。

◆繰り返し申し込むなど粘り強い交渉や「大臣目安箱」で指導を要請し、困難突破

県連	民商	事例内容
北海道	釧路	09年中に3回申し込んだが否決。当初は設備と運転の両方を申し込んでいたが、4回目は運転資金に絞って申し込んだ。追加の保証人や新たな担保の提供などの条件を提示してきたが、交渉の結果、現状での融資が実現した。
石川	金沢白山	Dさん(飲食業)が小口融資を申し込んだが、住宅ローンの条件変更をしていたため、断られた。財務局等に申し入れ、「住宅ローンの条件変更していても、県の制度融資を断る理由にはならない。貸し渋りではないか」と交渉。支部の仲間の力も借りながら、粘り強く交渉し、6カ月後に融資が実現した。
大阪	浪速	仕入単価の高騰とオークションサイトのシステム料の値上げ、売り上げ減少などで運転資金500万円を政策公庫に申し込む。消費税の滞納と利益率の低さおよび返済能力を問われ否決。金融庁の「金融円滑化『大臣目安箱』」に投書。①消費税の滞納分約10万円を税務署に相談し4万円と6万円の2分割に。税務署発行の「支払計画書」を提出。「税金の滞納や水光熟費などの遅れだけでは判断しない」といっておきながら、面接で「これが断る一番の理由」といわれた。従業員を確保するとともに、ショッピングサイトを立ち上げたいと説明したが、きちんとした回答が得られなかった。投書した2日後に政策公庫の金融課次長が訪れ、実質、その場で再調査に。300万円の融資が実現。
香川	高松	政策公庫に返済遅れを理由に緊急保証を断られたが、あきらめず銀行に再度申し込んだ。何回も足を運ぶことにより、熱意が伝わり融資が実現した。

◆事業資金と住宅ローンの条件変更を実現し、月々の負担を軽減

県連	民商	事例内容
神奈川	川崎中原	協会保証付の融資で2行から月22万円の返済が、条件変更で月3万円に。住宅ローンの返済が都市銀行に月14万円、ボーナス払い33万円の支払いが、月4万円でボーナス払いがゼロになった。条件変更の期間は、取りあえず1年間。2010年1月に実行。